

令和4年度 石川県立小松特別支援学校 自己評価計画書(最終評価)

重点目標	具体的取り組み(主担当)	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定	分析及び今後の課題	
1 指導力の向上	【ICT活用による授業改善】 タブレット端末を授業の充実のためのツールとして活用し、個別最適な学びと協働的な学びの実現を図る。 (教務課)	【努力指標】 タブレット端末を、授業の目的を達成するための手段として活用している。	タブレット端末を、授業の目標を達成するための手段として活用できたと感じる教員の割合は A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	B以上で達成	A	授業の目標達成のためにタブレット端末を活用できたと感じる教員の割合は86%であった。タブレット端末が「児童生徒の自発的な学習」「一人ひとりの意見を反映させた授業」等に活用できたことが成果として挙げられた。課題として、児童生徒同士の対話的な学習が難しかったことが挙げられた。今後は、深い学びにつながるよう対話のある授業づくりを目指して、タブレット端末を活用した実践の工夫をしていく。
	【取り組みの情報発信】 ICT活用や教科指導の取り組み等を、通信やホームページ等で定期的に発信し、家庭や地域に周知する。 (情報課)	【満足度指標】 授業や家庭学習等でのタブレット端末の活用が、児童生徒の学習の理解を進めるために効果があると感じられる。 (保護者アンケート)	授業参観やホームページにより学習の様子がわかり、タブレット端末を使った学習に効果があると感じる保護者の割合は A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	B以上で達成	A	保護者アンケートの結果、タブレット端末を使った学習に効果があると感じる保護者についてB(概ね感じられる)以上と評価した割合は、小学部88%、中学部85%、高等部84%であった。タブレット端末に興味がある、興味を持って取り組める、視覚からの情報によりわかりやすい、自分で調べる姿が見られる、自宅でもタブレット端末を使った学習を見ているから等の意見が寄せられた。一方で、約15%の保護者がCDを選択し、中間評価と同様にタブレット端末を使用した授業を見ていない、利用しているかわからない、どのような学習をしているかわからないとの意見が寄せられた。タブレット端末を使用した学習の様子が伝わるように、児童生徒が授業で活用する様子を保護者に伝える機会や方法を工夫していく。
	【研修の充実】 ICT活用と新学習指導要領を踏まえた教科指導の充実のため、外部講師も活用して研修の充実に取り組む。 (研修研究課)	【成果指標】 研修での学びを授業に取り入れたり、講師の助言を参考に自分の授業を改善したりする。	研修での学びを授業に取り入れたり、または助言を生かして授業改善ができた教員の割合は A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	B以上で達成	A	研修での学びを授業に取り入れたり、または講師の助言を生かして授業改善ができたという教員の割合は81%という結果であった。直接、授業を見て指導・助言を受け、自分の授業に生かすことができたという意見であった。できなかった教員はほとんどが教科の授業を担当していないという理由であった。校内研修が自分の授業を振り返る機会となったという教員の意見も多かったため、今後も研修の充実に図っていく。
2 災害に備える	【危機管理体制の更新と防災教育の充実】 防災教育年間指導計画の見直しと更新を行い、系統的・計画的な防災教育に取り組む。 (学校安全課)	【成果指標】 発達段階に応じた防災教育を実施し、児童生徒の防災意識が高まったり、主体的に防災学習に取り組んだりしている。	児童生徒の防災意識がより高まり、主体的に防災学習に取り組むことができたと感じる教員の割合は A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	B以上で達成	B	防災・安全教育を後期に2回以上取り組むことができた教員の割合は71%であった。各部で時機をとらえて、防災・安全学習年間計画をもとに、避難訓練の事前事後学習、避難所での過ごし方や防災グッズ作りや命を守る方法等、防災に関する学習に取り組んだ成果といえる。防災教育は大切であり継続的に取り組む必要があるという意見が多数あり、今後もさらに命を守る行動ができるように、各学部で防災意識の向上につながる教育実践を進めていく。
		【満足度指標】 学校の防災教育への取り組みに満足している。 (保護者アンケート)	防災、安全教育の取り組みについて満足している保護者の割合は A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	B以上で達成	A	保護者アンケートの結果、学校の防災教育への取り組みについてB(概ね満足)以上と評価した割合は、小学部98%、中学部97%、高等部98%であった。学校での取り組みが本人の学びにつながっている、災害伝言ダイヤルの体験がとてもよかった等の意見が寄せられた。一方、非常時は不安やパニックになるため、子どもたちが安心して避難できるように継続した取り組みを要望する声も多く挙がった。今後も命を守る行動につながるような防災学習や非常時の連絡体制を検討していく。

令和4年度 石川県立小松特別支援学校 自己評価計画書(最終評価)

3	コロナ禍と生徒増を踏まえた体制整備	<p>【基本的な感染症対策の継続】 学部に応じた指導内容を定め、児童生徒が感染症について正しく理解し、予防に主体的に取り組む。 (保健体育課)</p>	<p>【満足度指標】 感染症について、児童生徒の発達段階に応じた指導を適切に行っている。</p>	<p>児童生徒が感染症について正しく理解し、感染予防ができるよう継続した指導を行っている教員の割合は A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満</p>	B以上で達成	A	<p>感染症について、児童生徒の発達段階に応じた指導を行っている教員は86%であった。各部署で挙げた感染症予防の指導内容項目において、年間を通して指導を継続できた項目は多くあったが、一方、児童生徒の実態によりあまり取り組みが進まなかった項目もあった。今後も掲示物、配付物、放送等を使い、教員や児童生徒の意識が維持できるよう取り組み、特に、冬に向けては感染症対策の授業を実施するよう働きかけていく。</p>
		<p>【行事等の工夫】 コロナ禍での儀式的・体育的・文化的行事を、実情に合わせて工夫して行う。 (生徒課)(総務課)</p>	<p>【努力指標】 コロナに対応して行事の実施方法や会場等について課題を整理し、工夫して実施する。</p>	<p>行事の実施についてコロナに対応した課題の整理や工夫ができたと感じた教員の割合は A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満</p>	B以上で達成	A	<p>全校行事(学校祭)や儀式(始業式・終業式)、各部署の行事(校外学習等)で、それぞれコロナウイルス感染防止対策をした上での行事の実施における課題を整理し、実情に合わせた開催方法で実施することができたと感じている教員の割合は97%であった。密集・密接・密閉を避けるため、会場の時間的・場所的な分散、人との距離の確保、定時換気その他、検温・手指消毒の徹底など、意識して行うことができた。今回の各行事の運営における反省を受け、今後、生徒増を踏まえた体制整備につなげられる部分を検討していく。</p>
4	業務の改善	<p>【業務の効率化】 業務について課題を整理し、ICT活用を図りながら課の実情に応じた課題解決を目指し、業務の効率化に取り組む。 (教頭)(各課)</p>	<p>【成果目標】 各課の課題を整理し、業務の効率化、改善に向けて目標を設定して取り組む。</p>	<p>業務の効率化、改善に向け各課の実情に応じた目標を設定し、改善を図ることができた課の割合は A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満</p>	B以上で達成	A	<p>業務の効率化に向けて、どの課も概ね年間を通して取り組むことができた。保護者や学部内等への印刷物を削減する方法や会議の持ち方などに工夫が見られた。また、次年度の業務を円滑に遂行するため、課ごとにあるハンドブックを見直し、追記・修正を行うことで、業務内容の共有や整理を行っている課もある。今後は、業務の平準化のために職員同士の協力体制の構築やICT活用する等により、効率的な業務に取り組んでいく。</p>